

# 読書感想文の書き方

同じ本を読んでも、読み手によって感想はさまざまだ。読書感想文は読み手のもの  
の見方・考え方を映し出す。読書感想文の本を選ぶときは、本の題名、あら筋、目次、  
冒頭、友達からのお薦めなどを参考に、「この本を読みたい。」と感じたものを選ぼう。

## ① 本を読み、次のような点についてメモする

- ・読み終わって、どんな気持ちになつたか、それはなぜか。
- ・疑問に思つたこと。
- ・心に残つた言葉や場面とその理由。
- ・作品の中で起こるできごと自分が体験したこと
- ・印象的な登場人物とその特徴。

みんなの幸いを探しに行く勇気

一年三組 田中広実

「僕もうあんな大きな暗の中だつてこわくない。きっとみんなのほんとうのさいわいをさがしに行く。どこまでもどこまでも僕たち一緒に進んで行こう。」

「僕もあんな大きなかつた言葉だ。この言葉に、ジョバンニの決心を感じた。そして、ジョバンニがこう思えたのは、カムパネルラがそばにいたからだと思つた。

「銀河鉄道の夜」の中でいちばん心に残つた言葉だ。この言葉に、ジョバンニは自分が体験したことと自分が体験したことで似ていたこと。本を読んで自分の考えがどのように変わつたか。

## ② 内容を検討する

- メモを見直し、どの部分を感想文に書くか検討する。

(中略)

「ほんとうのさいわい」について考える間に、私の頭に浮かんだいわい」とはなんだろう。

## 題名

読んでみたくなる題名を考える。

## 書きだし

興味を引くために、感想文の中心となる話題で始める。

・印象に残つた言葉を引用する。

・誰がどうなつた話か、どんなことが中心の話題かなどを簡単にまとめ、感想や疑問点を述べる。

## あら筋

例  
自分がどうなつた話か、どんなことが中心の話題かなどを簡単にまとめ、感想や疑問点を述べる。



カムパネルラの行動と似ている体験を書こうかな。

## ③ 構成を考える

自分の考えや感想がよく伝わるように、感想文の構成を考える。

## ④ 感想文を書く

下の例を参考にして書き方を工夫する。

## ⑤ 推敲する

- ・誤字や脱字、言葉の誤用はないか。
- ・主語と述語が対応しているか。
- ・一文が長くてわかりにくくないか。
- ・くだけた表現や略語、語を用いていないか。

のは、遠足で行つた登山でのできごとだつた。急な下り坂で滑りそなつたとき、そばにいた友達がとつさに私の手をつかんでくれた。しかし、二人ともはでに尻もちをついた。

「ごめんね。」

と私が言うよりも先に、友達は、「けがしなかった?」

と真つ先に私の心配をした。とつさに私の手をつかみ、心配してくれる友達が結末でのカムパネルラに重なつた。

実は、カムパネルラは既に「みんなのほんとうのさいわい」のために行動していた。結末でカムパネルラは、ザネリを助けるために川に飛び込んだことがわかる。カムパネルラも「みんなのほんとうのさいわい」を実行して銀河鉄道に乗り込んでいたのだ。ジョバンニは、「みんなのほんとうのさいわい」を探すために、カムパネルラと一緒にどこまでも行きたいと言つていたが、その思いはかなわない。このときのジョバンニのことを思うと心が苦しくなつた。

けれど、ジョバンニは銀河鉄道の旅を通して、一人でもみんなの幸いを探しに行く勇気をもつことができたのではないか。そして、カムパネルラの行動を誇りに感じていると思う。私も本を読みながら、「みんなのほんとうのさいわい」について考える旅をした。そして、ジョバンニが決意したように、私もみんなの幸いを探す人になりたいと思つた。

## まとめ

本を読み、どんな思いをもつたか、自分の考えがどう変わつたかを書く。

## 自分との共通点

登場人物と似た体験や、同じような気持ちを感じたできごとについて考える。